

# 鳶に込めた思い

## 消防鳶隊「つるが鳶」の挑戦

そろいの法被に豆しぼりの鉢巻き。はしごの上に駆け上がり、次々と繰り出す華麗な技。そう、皆さんもご存じの「つるが鳶」です。彼らは、平成18年の結成以来、熱い思いとたゆまぬ努力で技をみがいてきました。ここまで彼らの心を動かしたものは？そして鳶に込めた思いとは？今回の特集は、「つるが鳶」に迫ります。



1

### 結成時に芽生えた鳶への思い

つるが鳶は、団員の減少や高齢化に悩む消防団を活性化しようと、平成18年9月に結成。翌年1月の出初式での披露に向け、練習を開始しました。

#### 初舞台に向け猛練習

練習は、低いはしごでの基礎練習からスタート。一つ一つの技を何度も繰り返し、体に覚えさせていきました。ある程度自信を付けてからは、4mのはしご、さらに6mの本番用はしごへと移動。高さへの恐怖や、演技への不安を払拭するべく、それまで以上に気合を入れ、練習に打ち込みました。

#### 成功への強い思い

本番に向け、必死に練習をこなしていった隊員たち。仕事や家族を抱えながら、時間をつくり、何



乗手リーダー  
奥田充裕さん  
(48歳)

度もはしごに登りました。いったい、そこまで彼らを動かしたものは何だったのか？乗手リーダーの奥田充裕さんはこう振り返ります。「正直、最初は隊員の中にも『何でこんなことせなあかんのかな』って言う人もいました。でも、練習を積んでいく中で、そんな思いは消えていきました。俺たちのやるべきことは、はしご乗りを成功させること。そういう責任感が出てきたんです。周りの期待もあって重圧もありましたが、互いに励まし合い、何とか乗り切りました。本番直前には、敦賀初の鳶を成功させよう！っていう強い思いで、みんなが結ばれていました。練習のムードも最高潮でしたよ。」

#### 忘れられない感動

そして迎えた初舞台。緊張感が会場を包む中、鳶隊が登場。3本のはしごに乗り手が次々と駆け上がりました。「舞い上がっていたけれど、いざはしごに登ったら緊張がとれた」と奥田さんが言うように、高さに臆することなく、隊員らは最高の演技を披露。一つ一つの技を確実に決めていきました。観衆からも大きな拍手。初舞台は、見事大成功に終わりました。

そのときの感動を奥田さんはこう話します。「たくさんのお客さんの前で、練習の成果を十分に発揮することができました。最高の初舞台でしたね。演技が終わったときは、うれしくて、みんなで『やったな！』と声を掛け合いました。あの感動は忘れられないです。」

#### 鳶としての誇り

中野強さんも、結成時から乗手を務める一人。当時の思いをこう話します。



乗手 中野強さん (40歳)

ホームページを開設。『つるが鳶』で検索してみてください！

「初舞台のことは今でも覚えていまず。最高に気持ちよかったですね。あの演技を通して、自信もつきました。そして、もっと上手くなりたい、この鳶を広めたい、という新たな思いも出てきました。」

今では、中野さんは自身でホームページを開設。技の紹介や活動ブログなどを通し、全国につるが鳶をアピールしています。「はしご乗りと言えば『つるが鳶』っていうぐらい広めたいんです。デビューの時に比べ、今は実力もついてきて、彦根鳶や三国鳶に負けなくらいの自信も出てきました。全国一は加賀鳶と言われていますが、それを越えるのが、大きな目標です」。中野さんの思いは、どんどん強まっています。



## 進化を続ける つるが鳶

### 敦賀まつりは特別

さつそうとデビューした「つるが鳶」。以後、活躍の場を広げていきます。2年目には、敦賀まつりに初登場。山車6基がずらりと並び、気比神宮をバックに演技を披露し、大観衆から喝采を浴びました。「気比さんの前の景色は爽快。ギャラリーもたくさんいるし、一番燃えます」。隊員らの中でも、まつりでの演技は特別です。

### 敦賀オリジナル

3年目には念願の新技を導入。それまで技や演技構成は、加賀鳶と同じものでしたが、「いつか自分たちのオリジナルを作りたい」。隊員らは構想を温めていました。そして、練習を重ね、ついに昨年末に完成。「腕だめし」「ねずみ返し」など、4つの新技を加えました。

また、「猿の子返し」という技を一部変えた、オリジナルの技を開発。技の途中に猿まねを加え、勢いのある技に仕上げました。「これで本当のつるが鳶になった」。今年の出初式。隊員らの思いの詰まった「敦賀オリジナル」が見事披露されました。

### ★敦賀流「猿の子返し」



通常の流れ

ここが敦賀流!



きよろきよろ見る猿のように首を左右に振ります

## 新しい力

つるが鳶の結成以来、徐々に増えた入隊者。今年も一人の若者が加わりました。第9分団に所属する塚本雅也さん(34歳)です。「最初は、はしごを支える持ち手だったんです。でも、次第に乗り手に憧れるようになり、練習を始めました。家族は心配していますが、いつか驚かせようと頑張っています」。



鳶の練習に励む塚本さん

仕事の合間を縫い、毎週練習に通う塚本さん。先輩に技のコツを教わりながら、着実に力を付けています。「早く一人前の乗り手になりたい。消防団の格好いい姿を、たくさんの人に見せたい」。新しい力、そして思いが、つるが鳶を成長させています。

## つるが鳶木遣り唄が完成!

町火消の心意気を伝える「木遣り唄」が今年2月に完成しました。この唄は、加賀鳶で使われる「木遣りくずし」という唄の歌詞を、敦賀流にアレンジしたものです。唄の吹き込みは、気比民謡会の新保松太郎さんが担当しました。「粋でいなせなつるが鳶は地元の誇り。ずっと続いてほしい」。新保さんの思いが詰まった唄は、つるが鳶の大きな力になっています。

### 【一番】

つるが鳶だよ いなせな姿 纏かっいで 火柱こえて おとこ伊達なら 命をかけて

### 【四番】

(二・三番省略)

みなと敦賀や 気比の松原 生まれ育った わが街まもる つるが鳶衆の ありや晴れ姿



新保さん

## まちの誇りに

### 最初の思いを忘れず

「結成前は、危険だからと反対の声もありました。何せ、6mの高さで演技をするんですから。でも最後は、団員らの「格好いい姿を見たい」、敦賀を盛り上げたい」という熱意に打たれました」と話すのは、結成時から隊長を務める辻廣昭さん。「始めた以上は中途半端なことはいけません」と、当時の思いを忘れずに、鳶隊の指揮に当たってきました。

### 乗り手と持ち手 お互いの信頼が大切

3年間を振り返り、「鳶を成功させる鍵は、乗り手と持ち手の信頼関係」と話す辻さん。「鳶はどうしても乗り手に注目が集まるもの。でも、その影では、持ち手が我慢強くはしごを支えています。その頑張りがあるからこそ、乗り手は安心して演技ができるんです。乗り



つるが鳶隊長 辻廣昭さん (60歳)

手と持ち手、お互いの気持ちが一体となっているか、緊張感を持って臨んでいるか。常に気を配りながら、はしごを見守っています。「辻さんの気遣いと、手綱を締める力が、演技を支えています」。

### 地域活性へ

最後に辻さんは、今後の目標をこう話します。「地域でも同じだと思いますが、消防団も高齢化し、団員が減っています。そんな中で、つるが鳶は大きな期待を背負って生まれました。今のところ、順調に進んでいます。今後は、さらさらと勝つていけるように、順調に進んでいきたいと思います。今後は、さらさらと勝つていけるように、順調に進んでいきたいと思います。今後は、さらさらと勝つていけるように、順調に進んでいきたいと思います」。

るまでに成長していきたくいですね。そうならば、鳶隊は「まちの誇り」として、消防団を盛り上げ、そして敦賀全体も元気にしていくでしょう。我々はそんな日が来ることを信じて、これからも地道に、そして熱い心を持って活動に取り組んでいきます」。

鳶としての誇り、技へのこだわり、地域活性への期待……。たくさんの方が込められた『つるが鳶』。彼らの挑戦は、これからも続きます。

1/11(月) 10:00~12:00

## つるが鳶の雄姿を見に行こう! 敦賀消防団出初式

問合せ 敦賀消防署庶務課 ☎23-9991

- 一斉放水(色水放水) 10:00~10:10 松島町 笹の川堤防左岸
- 分列行進 10:30~10:40 相生町大通り
- つるが鳶はしご 乗り演技\* 10:45~11:15 相生町大通り
- 観閲式\* 11:20~11:30 相生町大通り
- 管理者訓示・祝辞等\* 11:30~12:00 相生町大通り

\*は荒天の場合 きらめきみなと館

みんな、見に来てな!

